【ビジネス／チーム運営】

株式会社 FrogApps 様



料理の写真を共有できるソーシャルアプリ「ミイル」が人気です。ミイルを開発する株式会社 FrogApps の中村仁さんに、「サイボウズ Live」を使ったチームの情報共有とスマートフォンアプリの開発について聞きました。

500 万件の「食べたい！」気持ちが集まるソーシャルアプリ「ミイル」――成功するスタートアップの情報共有スタイル

copyright © Cybozu



株式会社 FrogApps 代表取締役社長 中村仁さん

料理の写真を共有して、コミュニケーションができるソーシャルアプリ「ミイル」が人気です。「食べたい！」という気持ちがアプリを通じて気軽に届くため、自炊や外食をする人が写真を共有するモチベーションになっているそうです。「人の食生活を変えるアプリを作りたい」。そう語るのは、ミイルを開発する**株式会社 FrogApps** の中村仁さん。開発におけるチームの情報共有には、無料コラボレーションツール「サイボウズ Live」を使っています。ミイルのスマートフォンアプリ開発に欠かせないチームの情報共有という視点で話を伺いました。

みんなの食生活を変えるメディアにしたい

――ミイルとはどんなアプリなのですか？

自分で作った料理や好きな食べ物の写真を共有できるサービスです。料理が美味しく見えるように加工した写真をアップロードでき、コメントを付けられます。

料理を食べた場所のシェアや検索もできるんですよ。写真には「いいね！」のように気持ちを伝える「食べたい！」というボタンがあります。先日「食べたい！」の送信数が 500 万件を超えました。料理を通じて、人々がつながり、気軽に食を楽しんでもらえるサービスになっているのかなと思います。

copyright © Cybozu



――スマートフォンアプリのダウンロード数は 20 万件を超えるなど、人気ですね。アプリを使ったユーザーからは、どんな反応がありましたか？

投稿写真の多くが、自宅で作ったご飯の写真でした。これは予想以上だったので驚きました。アプリを作った当初は、飲食店の料理を写真で共有されるかなと思っていたのですが、それに負けないくらい自炊をする人にもアクティブに使われているんですよね。

――ミイルによって、料理の写真を共有することから、コミュニケーションが生まれていると。

ご飯を作ることは、「孤独で報われない作業」になっているんだな、というのが 1 つの発見でしたね。家族間でも「おいしかったよ」「ごちそうさま」といったやりとりは当たり前になされるものですが、気恥ずかしくてなかなか言えなかったりしますよね。

ミイルは、作った料理、作ってもらった料理に対する気持ちを簡単に伝えられるんです。作った料理の写真に対して、ほかの人から「食べたい！」という反応があると、うれしくなりますよね。

copyright © Cybozu

――確かに、作った料理に対して反応があると素直にうれしくなります。
多くの人が手間を惜しまず、わざわざミイルで写真を共有してくれるのは、そのせいなのかなと思います。 ミイルによって、**料理をつくることが「手間」ではなく「喜び」と感じるきっかけになっている**のだと思うとうれしいです。
ミイルは、人の食生活や料理に対する行動を変えるメディアにしていきたいですね。
ミイルについてもっと知りたくなった皆さまに
▼豚組、ミイル・・起業のプロが考える、コラボレーションツールに一番大切なこと ｜ サイボウズ式

❑ 頭の中にある考えを、ToDo リストに書き出して共有する



――ミイルでは、これまでどんな情報共有ツールを使っていましたか？
ミイルを開発し始めたころは、私と iPhone エンジニア、サーバエンジニア、デザイナーの 4 人で進めていました。
4 人ともネットサービスやアプリの開発・運営経験があり、週に 1 度打ち合わせをすると、次の顔合わせまでに各々で開発を進めてくれました。情報共有の手段は電話やメールが多かったのですが、それで十分でした。

――その状態から、サイボウズ Live を使い始めたきっかけはありましたか
スタッフが増えたことが大きいですね。今ミイルは 14〜15 人で運営しているのですが、この規模になると、電話とメールだけでは情報共有が難しくなります。

copyright © Cybozu

そこでサイボウズ Live やチャットサービスなど、複数人で使えるコラボレーションツールを使うことにしました。



ミイル 中村仁さんのサイボウズ Live トップ画面

――サイボウズ Live をどのように使っているのでしょうか？

今は「取締役（ステアリング・コミッティの略で『ステコミ！』という名称になっています）」「マネジャー」「全社」という 3 つのグループを活用しています。用途によって使い分けている感じです。

私が一番書き込みをするのは「取締役」で作成している「ToDo リスト」で、月に約 40 件ほどのタスクを登録していますね。

ミイルでは月に 1 回取締役会議があるので、決めたいことや相談したいことをすべて ToDo リストに登録します。ほかのメンバーは、会議当日までに ToDo リストを確認して、アイデアをコメントしたり、議論を進めたりします。

ミイルでは、機能開発やビジネスモデルの検討など、絶えず意思決定の場面があります。頭に浮かんだ**タスクや案件を、抜けもれなく ToDo リストに入力しておくことで、すべてのタスクを忘れることなく対応できます。**

copyright © Cybozu



ミイルで活用されている ToDo リスト

――掲示板ではなく、ToDo リストを重点的に使うのはなぜですか？

取締役の会議の内容は基本的にすべて「意思決定」です。それをタスクとして登録しておくことで、「いつまでに」「承認する／しない」という点が明確になります。ToDo リストは締め切りを設定してグループメンバーに共有できるため、メンバー全員が締め切りを意識できます。その点が最適だと感じています。

また 1 人で抱え込まずに、ToDo としてメンバーで共有することで、自分以外の意見やアイデアが出てきて、案件を前に進めることができます。「**すべてを共有すると、楽になる**」――。サイボウズ Live を使っているとそんな感覚になりますね。

――ToDo リストでは、どんなタスクが共有されているのでしょうか？

例えばアライアンスの案件です。協業では自社と他社がともに意思決定をしますが、決定までにはさまざまな議論が交わされます。どのような経緯で議論の合意をしたかどうかは、きちんとメンバーに共有する必要があります。

最初は明確に「目的」や「ゴール」ありきで交渉が始まるのですが、気づくと「組むこと」そのものが目的化してしまい、本来のゴールを忘れてしまうことも少なくありません。

プロセスが大事な案件ほど、**やりとりの経緯を残して、メンバーと共有できるサイボウズ Live のようなツールを使うのが向いている**と感じますね。

copyright © Cybozu

アプリ開発の「入り口」と「出口」に、サイボウズ Live は欠かせない

――ほかのグループでも、ToDo リストを中心にお使いいただいているのでしょうか？

「全社」グループで頻繁に使っているのは掲示板ですね。ミイルの新規開発やプロジェクトが始まる時は、どんな機能を実装すべきかについてブレインストーミング（ブレスト）をします。

掲示板でブレストをすることで、そこで出たアイデアやデータ、参照ページの URL などを、ログとしてしっかりと残せるようになりました。



さまざまなアイデアのブレストをするサイボウズ Live 掲示板

また開発が終わった後に、新機能を含むアプリのデザインを全社員に共有する時にも掲示板を使います。ミイルの資産として、完成物のデータを保管しておくことができますし。

――データやアイデア、完成物を残すということが大事なのですね。ちなみに、開発中は別のツールで情報共有をしているのでしょうか？

はい、開発中はチャットツールでやりとりをしています。

アプリのデザイン確認には、迅速なフィードバックが必要です。作成したデザインに対してすぐに意見が欲しい場合は、リアルタイム性の高いチャットツールが向いていますね。やりとりを後で見返すこと

copyright © Cybozu

はほとんどないので、ログとして残しておく必要もありませんし。

――1 つのツールに頼るのではなく、複数のツールをうまく使い分けているのですね。
そういう意味では、経緯や完成データなど、ずっと残しておきたい情報はサイボウズ Live、ログを残す必要がなく、開発にスピード感を出したい場合はチャットツール――というように意図的に使い分けています。
アプリ開発の「入り口」と「出口」は、サイボウズ Live に頼ってますね。

メンバー全員がコラボレーションツールを使いこなす秘訣

――ミイルの他メンバーは、サイボウズ Live を使いこなせていらっしゃいますか？
スタッフの朝妻さん：わたしは元々IT 関係ではない仕事をしており、専門的な IT ツールは使ったことがありませんでした。それでもサイボウズ Live はスムーズに操作でき、（ミイルに参加する前の）過去のやりとりの経緯も追えました。
いい意味で「**考えずに使える直感的なツール**」なので、IT に詳しくない人でも簡単に使えると思います。

――サイボウズ Live のようなコラボレーションツールの活用度を上げるためのコツはありますか？
とにかく全員が使うような環境を作ることです。ミイルではメンバーが増えた段階で、電話やメールの利用を控え、サイボウズ Live を使った情報共有ツールに移行しました。コラボレーションツールを使うことで、より迅速に社内外とのやりとりができるようになったと思います。

メンバー数が 10 人以上になると、メールでの情報共有に限界を感じます。ちょっと目を離した瞬間に未読メールが 200 件以上になることもあり、1 つ 1 つのメールを忘れずに対応するのは無理だと感じましたね。
そんな時は、メンバー全員で「より便利なツールを使う」と決めてしまうといいですよ。

――ありがとうございました。

2012/11/19

copyright © Cybozu